

ちよつと、話

第三号 正道

二十三年の幕が開きました。何はともあれ新年を迎へられましておめでとうございます。美空ひばりさんの歌に「大生一路」と言うタイトルの歌が御座います。「二度決めた事は辛くとも、苦しくとも、最後までやり通す。」と言う趣旨決意の歌です。私は所持万端何事も今日を有意義に過ごす事が明日への希望につながっていくのだと思っております。正月には皆様方、今年目標を掲げられた事と思えます。人間の一生は一期一会の積み重ねです。私達一人ひとりが「二日一善」の所作をしようと思えば「良心事探し」をしなくてはなりません。そうする事が毎日を自然に有意義に過ごせ、明日への希望を満たす事になってまいります。

今年人間が万物の霊長である事の証を示そうではありませんか。アニミズムの中で全ての動きがマイナスに作用する事無く、相乗効果を生ませることが出来るか否か、挑戦する時が来ていると思います。私はこれを達成する道が正道になると確信致しております。自然体の良寛和尚ではないですが「花咲けば蝶が来て、蝶が飛来すれば花が咲く」と、とは言え山茶花や椿が咲いても蝶はいないではないか、と言われる方も見えると思えますが自然法爾の姿の中の出来事であり、四季ある日本には冬があり、冬は冬の中で生きているのです。生きていなければ春に蝶が舞い踊る事はありません。良寛和尚が蝶と花に例えての教え、心構えの相乗効果に因る実りへの道が何となく分かる気持ちに致します。然しながら自然は段々人間の成せる業か時節も狂いがちに成ってまいりました。これ以上自然の営みが崩れて来る様な事になれば地球上で生息する森羅万象全てに大きな問題が生じる事になります。何方かが「花の命は短くて、苦しき事のみ多かりき」と言われましたが当に我々の目から見れば百花繚乱の時期は短いものと思います。人間の命も外から見れば短く映っているのかも知れません。実際に過去を振り返って見ますと苦楽の思いではあります。何十年も経てきた時の重さを感じる事はありません。と言うのも我々は経てきた時間を全て記憶していませんし、時々の忘れられない事柄を思い出すにすぎないからです。仏教に於いても釋尊以来二千五百余年の流れがあるけれども我々は中々その重みを感じる事は出来ません。実際にタイムスリップ出来れば其の当時の状況下で生活体験でき直々に佛の教えを聞く事も出来るのです。当に新鮮そのものです。残念ながら今の科学を以ってしても不可能な事です。しかし幸いな事に五百五十二年に佛教が日本に伝わってから今に残る多くの仏閣、日本古来の神社、修行の中に築き上げられた靈場に赴き静かに念ずれば自然に脳裏に閃きを感じ取れる事があります。神秘的な不可思議なる現象です。お釈迦様は「法を光とし法を依り所とせよ自らを光とし自らを依り所とせよ」と申されました。正道を歩むうちに、やがて佛様の眉間にある白毫から出る光明を受けとれる様になれる事でしょう。

二十三年 一月 一日

善書院主人松田樹也藏尊